



心と心をつなぐ読み聞かせ



1年生は、朝の会の中で、毎日、読み聞かせを行っています。教室から隣にあるプレイルームに移り、「今日の本は何かな？」子どもたちは楽しみにしながら、担任の側に集まり、座ります。この日はレオ＝レオニ原作の「じぶんだけのいろ～いろいろさがしたカメレオンののはなし～」を読み聞かせました。1年担任の植松先生が「カメレオン知ってる？見たことある？」と質問すると、「知ってるよ！」「体の色が周りの色に合わせて変わるよ。」・・・子どもたちは知識や経験をつぶやきます。対話を大切にしながら、読み進めています。これからも心と心をつなぐ読み聞かせの時間を大切にしていきます。

どうぶつにはそれぞれじぶんのいろがある
カメレオンだけはべつ・・・。



絵本の世界に浸っている子どもたち！

さて、読み聞かせには様々なメリットがあります。今回はその中から5点紹介します。

① コミュニケーション能力の向上

読み聞かせを行うことで、子ども自身にも語彙力や読解力が付きます。まだ文字が書けなくても、絵本の内容を真似して、言葉を発するようになります。最初は絵本に書かれている表現の真似だとしても、だんだんと自分の言葉として発することができるようになります。そのため言語力の向上が期待でき、コミュニケーション能力を高めていくことができます。

② 語彙力の向上

読み聞かせによって様々な言葉の表現を耳にすることになるため、次第に語彙力が鍛えられていきます。語彙力が高いと、人に対して自分の気持ちを上手く言葉で表現することができるようになります。さらに、相手の言葉もしっかりと理解することができるため、人との信頼関係をよりよく築くことができます。

③ 記憶力の向上

読み聞かせを行うことで、子どもは「文字」と「声」と「絵」という3つの情報を多角的に取り込むこととなります。人間の脳は様々な情報が重なることによって、より強く記憶できるという仕組みを持っていることから、読み聞かせを行うことで複数の情報が一度に取り込まれ、記憶力がアップします。

③ 文書理解力の向上

読み聞かせを行うことにより、子どもの脳は知らない言葉を含んだ様々な言葉を理解する必要性が生じます。そのため文章理解力が向上し、小学校における学習内容をより深く理解できるようになります。さらに、文章理解力が向上することで、人の話がより理解できるようになります。

④ 気持ちや行動が落ち着く

本の読み聞かせを行うことで、子どもとふれあう時間が増え、読み聞かせを行わない場合と比較すると、子どもの気持ちや行動が落ち着きます。さらに、家庭で絵本の読み聞かせをする際には、子どもを膝の上に乗せるなど、肌を触れ合わせて行くと、「オキシトシン」というホルモンが脳から分泌されるそうです。このオキシトシンは、「愛情伝達物質」や「愛情ホルモン」とも呼ばれ、思いやりや愛情といった心を健やかに育むために欠かせないものです。このオキシトシンの働きにより、心の最深部で信頼関係を築き、強い絆を結ぶことができると言われています。

以上のように、「読み聞かせ」には、様々な良い効果が期待できます。

ぜひ、ご家庭でも、楽しみながら行ってみたいはいかがでしょうか。



全国学力・学習状況調査がありました

先週19日、6年生を対象とした文部科学省の「全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）」が行われました。国語科、算数科に加えて、今回は4年ぶりに理科も実施されました。「主体的・対話的で深い学び」を掲げた新学習指導要領が、小学校では2020年度から全面実施されていますが、3教科ともそれに基づく出題となっており、「思考力・判断力・表現力」を測る問題が目立ちました。続けて、学習状況を尋ねる質問紙調査もありました。子どもたちは、今までの学習を振り返り、問題と真剣に向き合い、最後まであきらめず、自分の力を出しきって、取り組んでいました。



一問一問、問題に向き合
い、真剣に考えています。

時間いっぱい
最後までがんばりました。



テスト結果は7月下旬ごろに公表される予定です。「できた」「できなかった」に一喜一憂するのではなく、結果を基に、本校の課題を明確化し、日々の授業改善に生かしていきたいと考えています。子どもたち一人一人への学習指導の充実や学習状況の改善に役立てていきます。